

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371500010		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム遊鳥		
所在地	熊本県天草市栖本町湯船原759番地		
自己評価作成日	令和5年3月15日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな海や山、田畑が広がる天草らしい環境の中に事業所はあり16年目を迎えている。1年前に外壁も明るめのピンクに変わり場所も分かりやすくなっている。外出が難しい中でもホーム内の畑には季節の花や野菜を育て収穫までして楽しんでいる。室内には毎月職員と利用者で一緒に制作した飾り物や写真を掲示したりして季節感を感じていただいている。利用者の不穩の原因に便秘も関係していると職員が感じていることから食物繊維の多い食事や、便秘薬など服用するタイミングを看護師を中心に考え一人ひとりに合ったコントロールを行っている。言葉にできない方は表情が陰しくなったり、体動があったりするので利用者が少しでも不快な思いをしないですむように話し合い取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から16年の経年によりリフォームされた住環境は明るく、コロナ禍に外出の制約もありホーム内での生活を充実させ、移動販売の活用等社会性を継続させ、手作りの食を継続する中で日常の会話から把握した事案はメニューの選択とする等職員の工夫が随所に表われている。重度化傾向も見られ、入院によるADLの低下等を防ぐ事もホームとしての役目であると認識し、歩行訓練による筋力アップが立位に繋げ、動画による開示が家族の喜びへと繋げている。家族との話し合い中で信頼関係が築かれ、看取りへの希望に添えており、最期まで支援することがホームの務めであるとあらためて認識している。地域の中でこれまで築き上げてきた関係は確固たるものであり、中学校からの花の苗や学校便りが届き、ホームからも手作りのアクリルたわしを贈呈する等相互の交流を継続している。入居者の「らしさ」に注視した日常は和やかで、家庭的なホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	午前、午後の申し送りの後、当日の職員で理念の唱和を行っている。利用者の中にも浸透しているようで頷いたり一緒に所どころ唱和される方もいて職員も共有、実践できるよう努めている。	理念を再確認し同じ理念を継続することとして、“利用者の視点に立ち…”とする理念を1日2回の唱和することで職員のみならず入居者にも浸透している。また、玄関への掲示はホームへの訪問者への啓発にも繋がっている。職員は入居者目線でケアに取り組み、“らしさ”に注視しながらも共に生活をする仲間として、食材の準備や洗濯物たみ等入居者も勤しみながらの日常は和やかであり、家庭的なホームが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材や備品などは近くのお店を利用している。豆腐、パン、野菜などそれぞれ週1回移動販売車が立ち寄っていただいている。パンなどは利用者も自分で選んで購入している。中学校からの花の苗プレゼントは継続している。	これまで築き上げてきた地域の中で確固たる基盤が確立し、開設当初から自治会へ加入し、会合に参加する等地域の一員として活動している。コロナ禍で入居者が住民との交流は難しい現状ではあったが、移動販売の利用等職員は工夫しながら出来得ることで入居者が地域に繋がる機会を作っている。また、中学校からは花の苗や学校便りが届き、入居者からは手作りのアクリルたわしを贈呈する等相互の関係が継続されている。	小学生の体験学習や中学生のワークキャンプ等がコロナ感染症の発生前のように受け入れることが出来れば、日常生活が一層賑わいになることと思われ、小中学校との関係性の継続に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会からの依頼で「認知症の対応について」介護者教室での講話を行い認知症の方に対する理解、支援を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で開催できず、今後は文書開催や現地開催など定期的に行いたいと思う。	コロナ禍により規約を提示し代替として書面審議としている。入居者の状況や、活動や出来事、事故・苦情、職員の異動等を記し、区長・民生委員・駐在所・病院の看護師・家族・地域包括支援センター等をメンバーとして手渡しし、資料や議事に対する意見等を収集する体制としている。また、運営推進会議の中で身体拘束の5つの項目について開示している。	コロナ感染症の緩和によりこれまで通りの対面での話し合いが出来ると思われる。今後も、委員との意見交換をサービスに反映されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	栖本町や町内の関連機関や事業所で作る、栖本こころプロジェクトのメンバーになっており、認知症相談などの役割を担っている。	行政からコロナ感染症の情報を得て対策を講じたり、旧町単位で行われているこころプロジェクトへの参画、地域包括支援センターへの相談や社協との情報交換や介護者教室の講師等行政以外にも関係機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的に身体拘束事項を挙げ職員全員で身体拘束がどのような悪影響があるのかを検討し身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	身体拘束等適正化委員会としてホームの現状や他施設での報道(虐待等)をもとに再確認し、身体拘束のもたらす弊害について研修している。ホームの現状として言葉がけについてスピーチロックに該当するかどうかを検討する等意識を強化させると共に、職員間で注意し合える環境の必要性を全員で共有している。また、見守りシステムである足元センサー(転倒予防として)の使用は家族と同意書を交わしている。身体拘束及び虐待等基本方針を整備し、拘束及び虐待の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設で行われた虐待報道の記事等を活用してなぜ虐待が起こるのか、虐待を行うと利用者や虐待を行った本人及び事業所がどうなるのかを職員で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度活用されているが入退院も多くなってきているので最期を迎えた際の事も後見人の方ともこまめに連絡、連携を図り支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を検討している際にはホームの見学を促しホームの雰囲気を感じて頂いたり質問を受けている。また、その際にパンフレット等で利用料金の説明などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況を報告し検討が必要なことや職員からの提案を伝え家族に判断決定をして頂いている。	家族等の面会はコロナ感染症対策の状況次第として、その都度連絡を行い、外で接触をしない方法等駆使し、毎月“ゆとり便り”や担当職員による情報発信の他、ホームページの活用等により家族の不安払拭に努めている。家族とのラインでのやり取りや要望等を収集しサービスに反映させている。	家族との交流はまだ難しい状況にあるが、コロナの緩和によりこれから検討していくとの意向であり、家族との交流する機会が実現されることと期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎回ミーティングに参加し職員の意見に耳を傾けている。緊急な対応が必要な場合は代表自ら率先して改善に着手している。	朝・昼・夕と3回の申し送りによる情報の共有化及び毎日ミーティングを行うと共に、グループラインを活用した話し合いや受診結果等を共有している。代表も参加される毎月の会議や問題点があれば随時話し合い、即時対応すべき事案はラインで通知する体制としている。職員の休みなど職員同士が交替できる環境が整備されている。また、ホームの運営状況も職員に開示する等透明性のある運営体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は新設された介護報酬の加算など、こまめに給与形態の説明を行い職員のやる気に繋げている。また、既存の勤務形態にこだわらず職員によっては短時間勤務できるように調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修の参加はできておらず内部研修も予定通りにはできていない。リモートや教材等を活用して各職員のスキルアップに努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍の影響で同業者との交流や研修会はできていない。感染症の状況を見ながら、同系列事業所との交流から再開させたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に最低でも1回はご本人と面談を行い少しでも信頼関係が築けスムーズに利用開始できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に可能であれば利用者本人とご家族にホームの見学をして頂いており雰囲気を感じて頂いたり、不安なことや質問を受け付け答えることで少しでも不安や心配の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談やご本人のADLの状況を見ながら管理者、計画作成担当者を中心に必要なサービスを検討、ご家族へ提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般の作業を出来る方と一緒にいき「自分は必要とされている」「役割がある」と感じてもらえるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日々の生活のお手伝いを行うが、ご家族の代わりはできず面会や電話で顔を見せたり声を聞くことで安心されることも多々ある事を伝え可能な限り面会して頂けるようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のなかでも地域の感染状況をみながら柔軟に感染症予防を行いながら面会できるように配慮し親しい方々との関係の継続を図っている。	入居者個々の生活環境等をリサーチし、正月の神社参拝や四季折々の慣習を継続している。また、おやつメニューを見て選べるような工夫はメニューを見るのが好きな声への対応である。職員体制に変動も無く、入居者との馴染みの関係が築かれている。入居者との会話で出てきた、出身地(御所浦)に行ければとの希望にユューチューブにより見ってもらう等の工夫もあり、家族と相談しながら出かける事が叶うことを願いたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に席は決まっているが利用者同士の会話などで調整が必要に感じた場合は管理者に報告、提案を行いその都度調整し利用者間の円滑な交流に繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご姉妹や知人などの紹介をいただいている。又、相談に来られたり退居後もオムツやミカンなどを差し入れて頂いている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりとした環境の中で職員は会話を行い、本人のやりたいことや出来そうなことを模索している。言葉に出来ない方はご家族に元気だった頃の状況を聞き取り本人の代弁として考え検討している。	入居者との会話の中で外食や弁当のチラシを見て盛り上がり、食に反映させる等、日常の中で入居者の思い等を引き出している。自己表現が上手く出来ない方等には職員が選択するような声を掛けや表情・言動等から推察している。目が不自由な入居者にはベルを用意し、用事があることには押してもらうとしているが、「ただ押してみただけ」から会話に繋げる等入居者の思いや意向を日常に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後と信頼関係が築けてから徐々に得られる情報もあるため、面会や近況報告の際に生活歴や日頃どんな考えをされていたか等の情報を収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録、ミーティングを通して職員全員が利用者個人の状況を把握出来るようにしている。必要なことはご家族とも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃ケアを行っている職員を中心にアセスメントを行いそれを計画作成担当者が把握し介護計画の作成に組み込んでいる。	初回は本人の入居により不安なことや分からないことは教えて欲しい等の本人の思いを察したプランを作成し、重度化には気分良く過したい等本人の思いとともに馴染みの職員や入居者と最期まで生活して欲しいとの家族の思いを具体的にプラン化し、不安無く穏やかな生活と、生き甲斐を感じる事が出来る様なプランが作成されている。日々の申し送りの中での情報を基にした話し合いをプラン作成に生かしており、職員の気づき等をケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には本人の言動や気づいたこと、取り入れたこと等を中心に記録してもらい職員間で共有し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望等は可能な限り要望に添うようにしている。法人内で福祉用具を取り扱っているため、ホーム内で使用する車椅子やベッドなど無料で貸し出しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の影響で地域資源の活用ができていない。感染予防を行いながらもwithコロナに向け以前行っていた訪問散髪などの再開を検討して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り入居前からのかかりつけ医を継続するようしており、場合によっては専門医への紹介や入院がスムーズに行えるように他院へ入院の問い合わせや診療情報の提供も行ってもらっている。	入居前からのかかりつけ医を聞き取りし、入居者毎の医療機関として2週間毎の往診や受診等継続して職員が対応している。職員はバイタルチェックを行い、異常が見られれば再検する等日々の健康管理を徹底し、異常の早期発見に努めている。毎週火曜日は希望により歯科往診を利用し、指導管理栄養士の訪問により栄養ケア等の助言を受けている。また、看護職員の増員により主治医との意見交換が出来る態勢となっている、	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師資格者がいるので管理者とその職員を中心に健康管理や病院受診など分担し医療機関と連携を図っている。内服薬など変更があった場合は申し送りをし情報共有するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際はサマリーなど情報提供書を作成している。面会ができなくても洗濯物の入れ替え時に病状の確認を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明をしている。102歳の利用者の時はご家族も高齢だったので、かかりつけ医と相談の上、連携を図りながら施設で看取りをすることができた。現在1名別のかかりつけ医と相談しながら看取りの方向で進めている。	重度化指針に関する指針及び人生の最終段階における医療について説明し同意を交わしている。今年度初めて、主治医と相談し、ホームでの生活を望まれた家族と話し合いを重ね、看護・介護職員が連携を図り、最期まで支援している。また現在も、家族の“このホームで顔なじみの皆さんと生活して欲しい”との思いに応え、最終章に寄り添い、不安無く穏やかな生活を支援している。ミーティングにより当日の職員を労い、初めて看取りケアに努めたことで最期まで支援することがホームの努めとしてあらためて認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変し意識喪失、呼吸停止した際に心肺蘇生を行い意識の回復に繋げ救急搬送要請を行ったことがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	天気予報等の情報を注視し風水害が起きそうな際は地域の避難所への入居者全員避難を積極的に行うようにしている。	火災を想定した訓練及び新人職員のため災通報訓練を行っている。これまでに大型台風接近の情報により町の避難所への避難を体験したことで、情報次第ではすぐに避難する態勢としている。備蓄として食糧や水等を確保し、定期的に入替える等有事に備えている。	有事の際の備えは万全と思われるが、全員の避難には時間も要した事と推察される。近隣住民の協力も得ることを視野に、運営推進会議を活用した避難訓練等検討頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄など1対1の対応を心掛けており、排泄中は可能な限りトイレより退室して排泄に集中できる環境を作っている。また、日常の動作や作業などで失敗があってもさりげなく支援し自尊心を傷付けないケアに努めている。	職員は入居者の目線に合わせたケアに取り組む、呼称は苗字にさん付けを基本とはしているが、同姓同名が多く入居時に同意を得て下の名前と呼んでいる。新たな入居者には入浴時のケアは同姓としている。写真掲載など個人情報の使用については本人・家族の了解を得ている。食事では自助具の軽い容器にすることで自分で食事をするを可能とする等自尊心を保つよう取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活のささいな会話の中にも本人が意思決定できるように選択肢がある言葉かけを行うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情などを見ながら混乱ない場合はできる限り本人のペースで待つ介護を心掛けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に個人のブラシを置いている。誕生日や行事の時は女性の方にはお化粧品したり、男性の方には本人持ちの髭剃りで毎日剃っている。コロナ禍で散髪は職員が本人に聞きながらしている。髪を染めたい利用者もおられるので希望時は染めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	陶器の食器が重く感じている利用者には軽めの食器や自助具、スプーンなども大きさを変えたりしてできるだけ自分で食べてもらえるよう支援している。ホットプレートで利用者と一緒に焼きそばやお好み焼きを作ったり、パンバイキングをしたりして楽しいと感じてもらえるよう工夫している。	職員が当番で手作りの料理を提供しており、畑で作る野菜や近くのスーパーや移動販売(パンや野菜等)、豆腐の配達の活用と共に、ドライブがてらに入居者と買物に出かけている。入居者も共に食材の皮むき等出来る力を発揮し、時にはホットプレートでの焼きそばやお好み焼き、ファミレスのメニューから好きな物を各々に選んでもらったり、クリスマス会やお雑煮・おせち料理等日常の手作り食事に加え、楽しみに繋がるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を取り入れながら一人ひとりに合わせた食事形態を心掛けている。月に1回指導管理栄養士に訪問していただいている。状態、体重を報告しアドバイス受け、年に1回1年間の栄養状態、体重変動などグラフにて確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を行っている。訪問歯科を6名の方が定期的に専門的な口腔ケアやリハビリ、治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成して排泄パターンを把握しトイレへの誘導、介助を行っている。排便時、力が入りにくい方は踏み台を準備し腹圧をかけやすくしている。	入居者個々の排泄パターンや様子や仕草によりトイレへの誘導を心掛け、乳製品やおから・オリゴ糖などにより便秘予防に努める等日中のトイレでの排泄が不穏対策として生かされている。日中は布下着、夜間はリパビリパンツへの変更や、排泄用品等不快にならないよう、家族と相談しながら小さいパットに変更する等入居者個々の状況を的確に把握しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給やお豆腐屋から無料で頂いているおからを使ったサラダ、ドーナッツ等食物繊維の多い物を食べて頂いている。排便-2日目には牛乳、オリゴ糖を飲んでもらいホール内を歩いてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事に合わせて菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいただいている。入浴後に眠ってしまい食事が入りにくい方は時間帯を工夫しながら行っている。入浴できない方はドライシャンプー、清拭、足浴をしている。	午後からの入浴を支援しているが、湯船に入る事が難しくシャワー浴中心となった方には脱衣所・浴室に暖房を入れ、足浴により温まってもらいながらのシャワー浴としている。また、同姓での介助の希望には随時変更して対応している。子どもの日には菖蒲湯、冬至には柚湯等見当識として継続して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠や排便状況を見て当日の職員で話し合い午前、午後休憩を行っている。冬など就寝時、足冷感ある方は膝までのレッグウォーマーを履いてもらいことで、湯たんぽの低温やけどなどの心配もなく安眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、名前、日付、時間等復唱してから服用していただいている。苦手な方には蜂蜜を混ぜたり、1錠づつゆっくり手渡し確認している。薬変更になった際は申し送り状態観察行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に利用者の状態を見てお手伝いをお願いしている。もやしの根取りやしめじを割いたりされているときは歌を歌ったりして楽しみながらされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの畑でから芋や玉ねぎの収穫をしたり梅の時期は手作り弁当持参で職員の家の庭の南高梅収穫をした。またホームの大規模改修の際は利用者全員で一日、近くの旧小学校の教室を借りていつもとは違う過ごし方をされたが落ち着いておられ、係りの方の心配りに感謝だった。	コロナ禍に外出の制限はあるものの、畑の野菜の収穫や梅の収穫等を外に出る機会としている。正月にはどげぬき地蔵への参拝やリフォームするにあたり移動し一日を過ごすことを全員で経験している。外出にかわり、食支援やホーム内で充実した日常を支援している。	入居者から新しい橋(未来橋)を見に行きたいと外出への意欲も出されている。外に出ることが可能になることで、入居者の日常が一層充実することと思われ、まずは近場や個別の外出支援が出来るよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名の方が財布を所持しておりジュースなどは職員と散歩を兼ねて近くの自販機まで行かれ本人の好みのジュースを購入している。事務所にて預り金管理しており、毎月出納簿コピーしてご家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月ご家族や送り物をいただいた方にお便りや写真を送っている。面会制限の中で普段の様子を動画を撮って送ったりしている。入居時、筋力が落ちて歩行できなかった利用者が平行棒で歩行されている動画を見て喜びの返事を頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月職員がテーマを決めて切り絵を掲示している。又、利用者の顔写真に着替えて写真を通して季節感を感じて頂いている。ホール内の中央テーブルに室温計を設置し調整を行っている。	開設して16年の経年によりリフォームされた住空間は明るく、入居者を中心とした共有空間である。玄関先には毎年中学校から贈られる花が彩り、玄関内には当日の職員体制や、職員の得意分野を発揮した作品が訪問者の目を楽しませている。共有空間のテーブルもその時々で移動させ、適切な温度調整等居心地よく過ごす環境が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に数か所ソファを設置し休憩される際には足を挙上できるように足置き台を利用してもらっている。目の不自由な利用者にはタブレットを使って好きな音楽や漫談などを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には少しでも安心できるように自宅で使い慣れた家具や生活用品を持って来てもらうよう依頼しご家族にも配置など一緒に考えてもらい利用者にあった環境づくりをしている。	入居に際し出来る限り家で使用されていた物を持ち込んで欲しいと説明する等、馴染みの品物が入居者に及ぼす今後に影響することを認識している。居室にはテレビやタンス、布団や写真等が持ち込まれ、季節外の服や布団はクロゼット内にしまうことですっきりとした居室である。家族も服や下着類等を気にかけてくださり、季節毎の入替えなど家族とともに居室環境を作るとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室に希望ある場合はカレンダーや時計を置いたりしている。本人の居室がわかるように2名の方にはドアに〇〇様の部屋と張り紙をすることで混乱なくなりスムーズになっている。		